

授業科目 (ナンバリング)	地域の理解と連携 (AD115)			担当教員	小田和人、陳 慶光、久田 貴幸、 佐藤 博、田中 宏光、藤井 佑樹		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：「いのち」と「市民の一員としての地域との関わり」 1. 地域の「いのち、健康、暮らし」の分野におけるトピックや社会事象について概要と事例を説明できる。 2. 一市民として地域に関わる方法を理解し、自発的・積極的に参画する態度を発揮できる。 3. 与えられたテーマについてグループの一員として、発言、傾聴、検討する役割を担うことができる。 4. 専門や考え方の多様性について理解し、相互に認め合うことができる。							② ④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	地域の「いのち、健康、暮らし」に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。				課題レポート ディスカッション・ 態度・参加度・		50% 10%
情報収集、分析力	新聞や図書館、更にはインタビュー等の情報収集能力を磨きテーマに関する分析方法を知り、レポートの書き方を覚えることができる。				課題レポート ディスカッション・ 態度・参加度・		30% 10%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席							受験要件
合計							100%
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は、ユニットごとの提出される課題レポート（4回）と学生態度・参加度・発表内容の合計点数によって評価する。課題レポートについては、ポートフォリオに提出する。そして理論的かつ独自の内容をもつように書くことができたかを評価する。15回目の授業で課題レポートの総合評価を行う。また、誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。なお、フィードバックは、ポートフォリオおよび授業の中で適宜行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分である。「地域の理解と連携」に関し、「いのち」と「市民の一員としての地域との関わり」をテーマとして、4つのユニットによるオムニバス形式の授業。まず、はじめに地域で生きることを「いのち」の観点から重要性を説き、市民として知っておくべき社会の仕組みと関わり方を理解した後、市民による地域振興・まちづくりなど地域における具体的な事例をもとに、地域理解、地域連携を考察していく。ユニット毎に講義を行った後、地域の理解と連携に関するテーマについて課題レポートを課す。							
教科書・参考書							
適宜、資料を配布する。指定図書：「佐世保市史」佐世保市編集							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から新聞・ニュース等を見聞きし、実際の地域の経済・文化・医療・福祉など「いのち、健康、暮らし」にまつわる情報や課題について関心を高めておく。</li> <li>・積極的に意見を述べ、考えをまとめる。</li> <li>・専門の異なる他学科の学生と交流することで、多様性を理解し、幅の広い視野を持つようにする。</li> <li>・各学科分野に関する地域の現状や課題を理解し、卒業後に職業人として他分野の専門家と連携しながら働き、社会と関わることをイメージできるようにすること。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	《全学科のオリエンテーション》	国際観光学科、社会福祉学科、健康栄養学科、薬学科の四つの学科によるオリエンテーションと授業評価の説明	長崎国際大学における全学科を調べておく。
2	《国際観光学科》 地域理解と地域活性化	地域の産業や文化などの新しい発見に出会うことにより郷土愛を育み、市民の交流を促進して、地域活性化に貢献できると確信している。地域の産業と文化、地域活性化について理解する。(陳)	自分の地域の産業や文化について調べておく。
3	《国際観光学科》 観光とまちづくり	「観光まちづくり」をご存知ですか？観光を通じて地域活性化を実践し、地域情報の収集と提供の新たな仕組みについて学ぶ。(陳)	長崎県が行っている観光による地域づくりを調べておく。
4	《国際観光学科》 地域振興・まちづくりに活かす市民活動	地域振興・まちづくりに必要な市民活動について、活動やイベントの事例を紹介し、地域における人々とまちづくりとの関係について考えていく。(陳)	地域の市民運動やイベントについて調べておく。
5	《薬学科》 地域との連携 1	先進国において5組に1組のカップルが不妊症と報告されている。その治療に関して、クローン細胞、iPS 細胞など、再生医療技術の進歩が新聞紙上をにぎわしている。不妊症治療を目指した本学発ベンチャー企業の取り組みを紹介する。(田中宏)	不妊症、再生医療について予習しておく。
6	《薬学科》 地域との連携 2	海洋資源が豊富な長崎県は多種多様な海洋生物が生息している。その成分の研究の歴史は 20 世紀半ばから始まったばかりであり、創薬の可能性を秘める。本講義では九十九島水族館海きららとの共同研究の成果を紹介する。(藤井)	海洋無脊椎動物や九十九島水族館について予習しておく。講義後は地域連携と学術研究の重要性を学ぶ。
7	《薬学科》 地域との連携 3	地元企業との光触媒を用いた照明装置、脱臭除菌装置の開発、微生物を用いた浴槽、リビング等のカビ抑制の研究、地域活性化のための月桃水、ローズ水の製造と分析等の共同研究について紹介する。(佐藤)	光触媒、浴槽のカビ、アロマについて予習しておく。講義後は、地元企業・地域とのかかわりあいについて理解を深める。
8	《社会福祉学科》 社会福祉との関わり	福祉の専門資格者の業務を通して、社会福祉・地域との関わりについて理解をして考える。(久田)	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の概要を調べておく。
9	《社会福祉学科》 みなさんと地域との関わり	地域連携と福祉実践・ボランティア活動について、先輩たちの実践報告を聞き、自分達ができる事を考える。(久田)	ボランティアなど地域活動の実践について調べておく。
10	《社会福祉学科》 社会福祉の実践家の話から福祉と地域を考える	社会福祉の仕事、実践は、私たちの暮らしと密接にかかわっている。社会福祉の実践者からの情報を踏まえながら地域と福祉について学び、考える。(外部講師)(久田)	これまでの学修を踏まえ、レポート内容を検討する。
11	《健康栄養学科》 「健康づくり」	健康を維持し、病気を予防する上での基本は栄養・運動・休養の調和を図ることにある。健康の維持・増進のために地域住民が行う健康づくりのための取り組みについて、健康づくり対策の変遷に沿って学んでいく。(小田)	『健康』とは何か。健康の維持・増進のために自身が行っている行動および改善点についてまとめる。
12	《健康栄養学科》 「栄養・運動・休養」	健康づくりの 3 要素といわれる栄養・運動・休養の基本的な事柄を中心に、日ごろ気を付けたいいくつかの項目について取り上げる。また、様々な取り組みを実践する地域の活動を学ぶ。(小田)	新聞などの地域のページ、市町村の広報誌を読み、どの様な住民対象の事業、イベント等が行われているか理解しておく。
13	《健康栄養学科》 「暮らし」	「地産地消」地域の食の力(食環境)を考える。地域にある特産の農産物や伝統的な郷土料理を知る。また、その土地の文化・風習を理解し、町づくりに活用する方法を学ぶ。(小田)	佐世保市や出身地の農産物や郷土料理について調べておく。食環境についてまとめる。
14	プレゼンテーションについて	課題レポートに対するプレゼンテーションの方法を身に着ける。	プレゼンテーションの方法を調べる。
15	自由討論会	4 学科毎の課題レポートに関する総評と自由討論を行う。	提出した課題を再度、精査する。